

県きこL研ニュース

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会事務局（盛岡市立桜城小学校内）

〒020-0022 盛岡市大通 3-8-1

電話／FAX 019-624-0457 e-mail:jimukyoku@iwate-nangen.jp <http://www.iwate.nangen.jp>

自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもを目指して

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会
会長 飯岡 竜太郎

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年度、岩手県内の通級指導教室は、ことばの教室が92教室、きこえの教室が41教室、LD等指導教室が28教室、幼児教室が31教室、全部で192教室が設置されております。

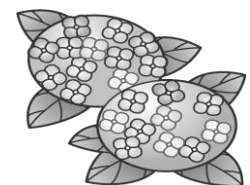
先日開催いたしました代議員会や理事会において承認いただきましたが、今年度の本教育研究会では、研究主題を「自分の目標に向かって主体的に学ぶ子をめざして～自立を促す指導・支援の在り方」とし、今年度における研修や教育実践をとおして、障がいの特性やそれぞれに応じた指導法を学び合うとともに、自分のよさや可能性を認識し、目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざした自立を促す指導・支援を究明していくこととなります。

昨年度末、私がお世話になっている桜城小学校では、通級の子どもたちが、1年間の自分の成長をまとめ、その成果を自分の在籍学級で発表する「きこえとことばの発表会」がありました。子どもたちのテーマは様々で、発音にかかわる成果発表、ことば遊び、クイズ、研究してきたものの紹介や発表など、自分がこの1年間努力してきたもの、興味・関心を高めてきたものを選んでいきます。慣れ親しんだ学級の仲間とはいえ、人前で発表するという事は、決して簡単なことではありません。緊張しますし、聞いている人全員にわかってもらうためには、それなりの工夫が必要です。きこえ・ことばの教室での子どもたちの様子を見ると、通常の練習とともに、発表会に向けて、あれこれ迷ったり先生に相談したりしながら、よりわかりやすい発表となるようアイデアを出して、内容や進め方を工夫していました。そして、本番では、どの子も学級の仲間の前で堂々と発表し、仲間や担任の先生から大きな拍手をもらう姿は、とても輝いて見えました。

きこえ・ことば・LD等の指導は、専門性が求められることももちろんですし、そのための指導方法を日々学ぶ必要がありますが、子どもの可能性を信じ、子どもの課題意識や学習意欲を引き出して、主体的に学ばせることの大切さを、指導者の教育観として常に持ち合わせていたいものです。

会員の皆様におかれましては、指導方法を学び合い、教育観を共有する場として、本研究会の活動に積極的にご参加いただくとともに、会員相互のつながりを大切にしながら、今年度も、「目の前の子どものため」「岩手の子どものため」に、教員としての資質向上に共に努めてまいりましょう。

今年度の本研究会の運営や研究推進におけるご理解やご協力を、どうぞよろしくお願いたします。



《令和6年度役員・地区会長・地区理事・研究班理事について》

◎今年度の研究会の活動を推進して下さる皆さんです。よろしく願いいたします。

役員	会長 飯岡竜太郎 (盛岡市立桜城小学校長) 副会長 梅野 展和 (盛岡市立好摩小学校長) 会計監事 斎藤 佳孝 (盛岡市立厨川小学校長)	副会長 中村 幸子 (盛岡市立杜陵小学校長) 副会長 牟岐茂里雄 (八幡平市立大更小指導教諭) 会計監事 及川 公子 (盛岡市立土淵小中学校長)
地区会長	盛岡 及川 公子 (盛岡市立土淵小中学校長) 花北 小川口 潤 (花巻市立東和小学校長) 両磐 門田 徹 (一関市立花泉小学校長) 宮古 熊谷 純 (宮古市立千徳小学校長)	岩手 三浦 英治 (八幡平市立大更小学校長) 胆江 高橋 一彦 (奥州市立胆沢第一小学校長) 上閉伊・気仙 小石 敦子 (大槌町立大槌学園学園長) 県北 吉田 隆 (二戸市立浄法寺小学校長)
研究班理事	校長班 皆川 晃宏 (盛岡市立手代森小学校長) 幼児班 戸澤 理衣 (一関市教育委員会)	難聴班 澤口 貴志 (北上市立笠松小学校) LD班 向折戸 志保 (洋野町立種市小学校)
地区理事	盛岡 柴田 正徳 (盛岡市立青山小学校) 花北 佐藤 匡子 (花巻市立石鳥谷小学校) 両磐 伊藤 さゆり (一関市立大東小学校) 宮古 島野 佳子 (宮古市立宮古小学校)	岩手 岸本 洋行 (滝沢市立鶉飼小学校) 胆江 村上 春枝 (奥州市立水沢南小学校) 上閉伊・気仙 柴原真由美 (陸前高田市立気仙小学校) 県北 高橋 弥子 (久慈市立小久慈小学校)
事務局	事務局長 下村 絹子 (桜城小) 事務局員 中塚 貴子 平 浩一 佐々木真子 (桜城小) 大志田裕子 (杜陵小) 庄司 悦子 (厨川中) 熊谷亜紀子 (津志田小) 関 幸子 (手代森小) 阿部 郁代 (土淵小) 福島恵美子 (向中野小) 大櫻 恵一 (沼宮内小) 五代儀康代 (日詰小) 菊池 朱理 (滝沢東小)	

令和6年度 県内の教室担当者数

(人)

	通級指導教室担当		特別支援学級担当		巡回指導担当	合計
	小学校	中学校	小学校	中学校		
ことばの教室	87	0	0	0	5	92
きこえの教室	1	0	27	13	0	41
LD等通級指導教室	16	12	0	0	0	28
合計	104	12	27	13	5	161

幼児教室担当	31
---------------	-----------

◎令和6年度 学級・教室・施設の変動状況

<新設校>	盛岡市立渋民小学校	きこえの教室	雫石町立雫石中学校	きこえの教室
	滝沢市立滝沢第二小学校	きこえの教室	花巻市立南城中学校	きこえの教室
	奥州市立南都田小学校	きこえの教室	釜石市立平田小学校	きこえの教室
	宮古市立宮古西中学校	きこえの教室		
<閉設校>	雫石町立御明神小学校	きこえの教室	滝沢市立滝沢第二中学校	きこえの教室
	一関市立藤沢中学校	きこえの教室		

《研究推進について》

- 1 研究主題 **自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざして
～ 自立を促す指導・支援の在り方 ～**
- 2 研究内容 **地区研究会・研究班の課題や実態に応じた研究内容とする。**
 (1) 研究の内容 本会の研究主題を基に各研究班各地区研究会が研究内容を設定し、進める。
 (2) 研究の方法 授業研究、文献研究等
 (3) 研究成果の発表 研究大会において成果を発表する。
 令和6年度 校長班（県南地区）難聴班 LD班（小中）花北地区、両磐地区、宮古地区
- 3 研究計画
 【1～3年次】 令和5～7年度 実践研究
 【4年次】 令和8年度 研究のまとめ、次年度研究テーマの検討 全班・全地区

《事業について》

(1) 第65回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会について

- ① 期 日 令和7年1月8日(水)
 ② 会 場 いわて県民情報交流センター「アイーナ」
 ③ 内 容 ・開会行事、分科会（研究班・地区研究会の研究の発表と協議）、講演、交流会
 ・日程、内容の詳細については、第2回理事会で協議する。
 ※開会行事の中で、感謝状贈呈を行う。対象者は、各地区で推薦し、第2回理事会で決定する。
 ④ 日 程

9:20 9:45 10:00 10:05 11:35 12:30 14:00 14:15 15:30 17:00 19:00

受付	開会 行事	休 憩	講演 90分	昼 食	全体発表 90分	休憩	分科会 75分	連 絡	移 動	懇親会
----	----------	--------	-----------	--------	-------------	----	------------	--------	--------	-----

《編集・刊行・調査について》

- 令和6年度 岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会 名簿
- 会報「県きこ研ニュース」年4回発行予定
- 第65回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会 発表資料集
- 令和6年度 きこえ・ことば・LD等・幼児教室 指導幼児児童生徒数の調査

《お知らせ》

○ 第53回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会「沖縄大会」について

- ① 期 日 令和6年8月9日(金)・10日(土) 対面参加、オンデマンド視聴参加
 ② 会 場 那覇文化芸術劇場 なは一と(那覇市久茂地3丁目26-29)
 (モノレール：県庁前駅、美栄橋駅より徒歩6分 バス：久茂地公民館前より2分)
 ③ 内 容
 記念講演 「難聴・言語障害教育において大切にしたい視点ー「今こそ」、そして「生きるかたち」ー」
 講師：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所研究企画部上席総括研究員兼部長 牧野 泰美 氏
 基調講演 「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への指導・支援の充実」
 講師：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 村上 学 氏
 分科会 午前：「構音」「吃音」「言語発達」
 午後：「聴覚」「連携」

4 1 回 岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会研修会 報告

- 1 期 日 令和6年5月2日(木)
- 2 会 場 いわて県民情報交流センター「アイーナ」
- 3 参加人数 181名



講座A1 ことばの教室における教室経営
八幡平市立大更小 指導教諭 牟岐 茂里雄先生



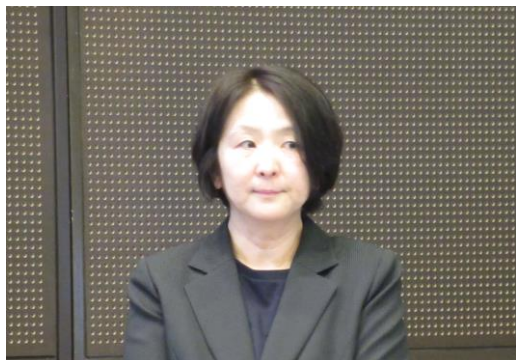
講座B1 難聴についての指導・支援
岩手県立盛岡聴覚支援学校 教諭 熊谷 美智子先生



講座C1 LD等通級指導教室における教室経営
盛岡市立津志田小 指導教諭 小野寺 佳織先生



講座D 吃音についての指導・支援
花巻市立花巻小 教諭 吉池 稚重子先生



講座A2 発音についての指導・支援
陸前高田市立気仙小 教諭 紫原 真由美先生



講座B2 きこえの教室における授業づくり
滝沢市立滝沢東小 教諭 千葉 晶子先生

講座C2 LD等通級指導教室における
授業づくり
奥州市立岩谷堂小 指導教諭 柴山 佑美先生
盛岡市立厨川中 教諭 庄司 悦子先生



講座F 口唇・口蓋裂についての指導・支援

滝沢市立鶴飼小 教諭 岸本 洋行先生

午後の研修は、言語通級指導教室担当の課題別グループと、難聴班、幼児班、LD班に分かれて研修が行われました。教室経営の現状や指導・支援の仕方、今後の運営方針等について、意見交流が活発に行われました。

<教室経営>

ことばの教室でのLD等児童の通級や親の会の運営について話題になりました。言語の通級以外の児童をどのように時間割に組んでいくか、児童の実態に合わせた指導方法についての悩み、親の会の各支部での運営の様子などが話し合われました。そして、ことばの通級を優先しながらできる範囲でLD等児童を受け入れていくこと、保護者と担当者が共に、楽しんだり学んだりできるよう進めていくことなどがまとめとなりました。

<構音障がい1>

置換の指導、巡回指導、その他日頃の悩み等について交流しました。具体的な指導方法や指導の継続の大切さ、親の会や教育委員会、担任との連携等、様々な視点から話し合いが行われました。

<構音障がい2>

機能訓練などの指導の工夫や言語以外に課題がある児童への指導、幼児教室との連携の必要性等について等、各教室の様子や実践を交流しました。



<構音障がい3>

巡回指導や新設された教室の環境、時間割の組み方など、経営に関わる話題について交流しました。また、初めて指導する担当者へのアドバイスや様々な特性を併せもった児童への指導についても話し合いました。

<構音障がい5>

機能訓練や構音指導の具体的な実践の交流の他、嘔声の指導方法、場面緘黙の指導、指導報告書について等、幅広く話し合いが行われました。

<吃音・緘黙1>

高学年の指導、中学校へのつなぎ方、自覚がない児童（自覚を促したい児童）への対応、保護者面談について等、具体的な実践を交流しました。吃音については対応が難しいが、情報を収集し、必要な情報を整理し活かすこと・提供すること、連携することが大切というまとめとなりました。

<言語発達遅滞>

言語発達遅滞の対象となる児童の基準・見立てや、学年に応じた指導、コミュニケーション力をつけるための指導について話し合いました。各担当が実践している具体的な指導について交流しました。

<構音障がい4>

児童の実態把握（見立て）やどのように指導をスタートするかを柱として話し合いました。指導1時間目での関係づくりや初期段階の舌づくり・母音練習で基礎をつくっていくことの重要性、それぞれの課題音の指導について等、実践交流が行われました。



<吃音・緘黙2>

担当している児童の実態や指導について交流しました。緘黙の指導では、無理に話させるのではなく、意思表示することを教えること、吃音の指導では、自己理解や進学後を見通すことなどについて話し合いました。

<口蓋裂>

術後ケアや医療との連携、障がいとの向き合わせ方、指導方法などについて意見交流が行われました。岸本先生からたくさん教えていただいた時間となりました。

<難聴班>

今年度の難聴班の運営確認や研究計画、各教室の様子について交流しました。音楽や英語等の教科指導や手話指導、言語（語彙）指導、支援計画について、自己肯定感を高める指導、支援計画の作成、自立活動の時間確保等について話し合い、悩みや困りごとを共有しました。





<LD班>

今年度の県の研究主題を受けて、地区ごとに地区研のテーマや研修計画を話し合い、全体で確認をしました。

児童・生徒の実態把握や教室経営についても交流しました。

<幼児班>

今年度の研究は、発音だけでなく発達障がいを伴った幼児（保護者も含め）をどのように見立て学校へつないでいくかについてを中心にして進めていくことになりました。また、各教室の就学相談の流れについて、少人数に分かれて交流しました。



講演

「特別支援教育の理解と対応」

～きこえ・ことば・LD等における指導・支援～



聖和学園短期大学学長
山形大学名誉教授

三浦光哉氏

「通級による指導」の対象となる児童の基準についてのお話を始めとして、幼児期からの見極めと対応が大切であること、個別の指導計画を適切に立てること、通級による指導の教室経営と指導・支援について、難聴・言語・LD等の各教室の具体的な経営や教育支援の仕方について等、様々な観点から幅広くお話ししていただきました。

自立活動の指導では、子ども主体の参画型で行うことや子ども自身が自立活動を理解できるよう「可視化」することなどが大切であることも教えていただきました。

教室経営や指導・支援を行っていく上で、担任・教科担当・保護者との報告・連絡・相談が重要であることを改めて実感しました。

明日からの指導にすぐ生かしたい具体的な見方・考え方や事例をたくさん紹介して